

## 基本理念

### 目的（存在理由）

#### 社会への貢献

わたしたちは  
社会に役立ち、人々の心や暮らしを豊かにし、  
よって社会に貢献することを目的とします。

### 基本的価値観（不変の主義）

#### 1 開拓の精神

わたしたちは、失敗を恐れず、情熱を持って、  
未開の地（新しい分野）に挑戦することを誇りとします。

#### 2 不断の努力

わたしたちは、弛みない努力によって、  
困難に打ち勝ち、目的の実現に至ることを喜びとします。

#### 3 誠実な意志

わたしたちは、わたしたちを支える人々\*に対し、  
揺らぐことのない誠実な意志によって行動します。

\*「わたしたちを支える人々」とはステークホルダー  
（お客様、サプライヤー、株主・投資家、従業員とその家族など）を指します。

## 株主の皆様へ



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここに第43期（平成23年4月1日～平成23年9月30日）  
中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当事業年度における日本経済は、東日本大震災による  
甚大な被害を受け、生産設備の毀損や原発事故による電力  
不足など、期初には生産・輸出を中心に大きく落ち込み  
ましたが、被災企業の生産設備の復旧や家計・企業の消費  
マインドの回復が進み、景気は持ち直しつつあります。し  
かしながら、依然として国内消費の回復は弱く、円高の進  
行や海外経済の減速など先行き不透明な状況が続いて  
います。

このような状況の中、当社は、東日本大震災の被災地  
域において、約2,000戸の応急仮設住宅を建設しました。

そのほか震災復興に伴う仮設現場事務所や仮設店舗、仮  
設庁舎などの建設需要に対応するため、ユニットハウスや  
人材などの経営資源を東北地域に集中し、早期復興に向  
けた取り組みを進めています。

現在、東日本大震災の被災地域では、応急仮設住宅の  
建設はほぼ一段落し、今後は震災復興に必要な仮設建物  
の建設が社会的な要請としてより高まってくると思われま  
す。必要な時に必要なスペースを必要な設備とともに提供  
する——当社のユニットハウスは、このような有事の際にも  
役に立つと確信し、被災地および日本の復興に向けて全  
社一丸となって努力を続けてまいります。

今後とも創業当時から受け継がれてきたフロンテアスピ  
リッツ（開拓の精神）を原点に、社会に貢献する会社を目指  
し、失敗を恐れず情熱をもって活動していきます。

### 当事業年度（平成23年4月1日～ 平成23年9月30日）の業績について

東日本大震災からの復興に向けて全力をあげる一方で、  
ここ数年来続けてきた展示場やトランクルームの積極的な  
出店による販路の拡大と、本建築市場・不動産市場の開  
拓に、当期も継続して取り組みました。

各事業の概況について、ご報告いたします。

ユニットハウスのレンタルにおいては、前述の東北地域  
の震災復興需要に優先的に取り組むとともに、設備などの  
付帯工事の獲得を強化するなど受注単価UPに努めまし  
た。トランクルームにおいては、新たに15店舗を出店するな

ど売上拡充に努めました。その結果、当第2四半期連結累  
計期間レンタル料収入は8,244百万円となりました。

ユニットハウスの販売においては、当社直営の展示場を  
14店舗出店し、販売チャネルの拡充に努めるとともに、オ  
フィスや店舗など本建築物件の受注に注力しました。その  
結果、当第2四半期連結累計期間製品売上高は8,036  
百万円となりました。

これらの結果、ユニットハウス事業の当第2四半期累計  
期間売上高は16,280百万円となりました。その他の事業  
については、当第2四半期連結累計期間売上高は177  
百万円となり、当第2四半期連結累計期間売上高は  
16,457百万円となりました。

利益面においては、製造及び施工現場での原価低減  
により、営業利益3,184百万円、経常利益3,175百万円、  
四半期純利益は1,675百万円となりました。

今後とも、リユース可能なユニットハウスの特長を活か  
し、期間限定で空間を必要とするニーズを開拓し、業績の  
拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指  
導ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成23年12月

代表取締役社長 長妻貴嗣